

学年										
小学校						中学校				
1	2	3	4	5	6	1	2	3		
小笠原村立小笠原中学校 家庭科 3年 年間指導計画										
月	単元名	幼児の生活と遊び (6)				系単元性の	A 家族・家庭生活(2)幼児の生活と家族(ア) 小学校では、家族と触れあいや団らん、地域の人との関わりについて学習した。中学校では、家族の中でも幼児に焦点をあて、心身の発達の特徴について学習していく。			
学習活動										
4		・幼児の心身の発達について、発達の方向性や順序性ととも、個人差があることを理解する。 ・幼児の成長に必要な地域施設について知る。 ・生活時間のグラフ読み取りやビデオ視聴を通して、幼児にとっての遊びの意義を理解する。					「わかる」から「できる」授業への工夫 幼児にとっての「睡眠」や「遊び」の重要性を深く理解することが難しい場合がある。			
5							自分の生活時間と幼児の生活時間をグラフで比較することによって、幼児の「睡眠」と「遊び」が多くの生活時間を占め、いかに重要であるかを理解することができる。			
6										
評価規準										
	知識・技能	幼児の心身の発達の特徴について理解している。 幼児にとっての遊びの意義について理解している。 定期考査				思考・表現・判断	幼児の発達の特徴をふまえて、幼児との関わり方を考えることができる。 プリント・定期考査			
						主体的に学習に取り組む態度	幼児の発達や生活習慣、幼児を取り巻く家族・地域の在り方に関心をもち、幼児との触れあい体験に生かそうとしている。 授業態度・提出物・自己評価			
月	単元名	幼児との触れあい (8)				系単元性の	A 家族・家庭生活(2)幼児の生活と家族(イ) 小学校では、家族と触れあいや地域の人との関わり、家庭の仕事について学習した。中学校では、幼児との触れあい方について、製作したおもちゃを使った触れあい体験を行って学習していく。			
学習活動										
7		・製作したおもちゃを用いた幼児との触れあい体験(父島保育園への保育実習)を通して、幼児との関わり方を知る。					「わかる」から「できる」授業への工夫 幼児への積極的な関わりができない場合がある。			
8							班ごとに触れあい体験をさせることで、グループで助け合いながら、グループ遊びを通して関わりができる。 自分で製作したおもちゃを持参させ活用させることによって、ふれ合う機会を増やす。			
9										
10										
11										
評価規準										
	知識・技能	幼児に興味関心のある玩具を制作できる。 幼児との適切な関わり方ができる。 作品・実習態度・定期考査				思考・表現・判断	幼児との関わり方について課題を見だし解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 実習計画表・事後レポート・定期考査			
						主体的に学習に取り組む態度	幼児との触れあい体験に積極的に参加し、実習で学習したことを実生活に繋げようとしている。 授業態度・提出物・自己評価			
月	単元名	これからの私と家族 (3.5)				系単元性の	A 家族・家庭生活(3)家族・家庭や地域との関わり 小学校では、家族と触れあいや地域の人との関わりについて学んだ。中学校では、学年末に高齢者疑似体験を設定し、高齢化する地域での高齢者との関わりと地域社会で自分ができることについて考えていく。			
学習活動										
12		・家族の中での自分の役割とコミュニケーションのとり方を理解する。 ・高齢者疑似体験を通して、高齢者の特徴と関わり方を理解する。					「わかる」から「できる」授業への工夫 高齢者へのネガティブなイメージを持っている場合が多い。			
1							実際に高齢者疑似体験をさせることで、高齢者の身体的特徴を知り、その上で、活躍する高齢者の姿を見たり、高齢者にとって暮らしやすい地域を作ることに考えてさせたりする。			
2										
3										
評価規準										
	知識・技能	家庭生活が、家族地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解することができる。 定期考査				思考・表現・判断	家族関係をより良くする方法を考えることができる。 高齢者によって住みやすい地域の在り方を考えることができる。 プリント・定期考査			
						主体的に学習に取り組む態度	家族、高齢者、地域との関わりについて関心をもち、実生活に繋げようとしている。 授業態度・提出物・自己評価			